

平成21年度

水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

1. 市町村の概要

(1) 市町村名

島根県飯石郡飯南町

(2) 派遣対象地域

志津見ダム周辺地域

(3) 町の概要

平成17年1月1日、頓原町と赤来町の合併が実現し「飯南町」が誕生しました。本町は島根県中南部にあり、広島県との県境、中国山地の脊梁部に位置し、周囲を1,000m前後の琴引山や大万木山などに囲まれ、平坦地の標高が約450mの県下でも代表的な高原地帯です。面積は242.84平方キロメートル（東西32km、南北32km）で、約90%を山林・原野が占めています。



(4) 主な施設

(学 校) 高校(1)、中学校(2)、小学校(4)、保育所(4)

(福祉施設) 特別養護老人ホーム(2)、養護老人ホーム(1)
デイサービス・グループホーム等の福祉施設(4)

(医療機関) 町立医療機関(2)、民間医院(1)、歯科医院(2)

(公営住宅) 町営(17)

(5) 人口

年別	世帯数 (戸)	人口		
		総数(人)	男(人)	女(人)
平成17年4月1日	2,197	6,174	2,932	3,242
平成18年4月1日	2,179	6,076	2,884	3,192
平成19年4月1日	2,166	5,967	2,824	3,143
平成20年4月1日	2,144	5,795	2,741	3,054
平成21年4月1日	2,138	5,721	2,719	3,002
平成21年10月1日	2,136	5,689	2,710	2,979

高齢者比率 (38.7%) 2009/10/1現在

(6) 志津見ダム周辺地域の現状と課題

志津見ダム周辺地域は、気候的にも豪雪寒冷地であり、交通面でみても県都松江市まで66km、広域市町村圏の中心都市である出雲市までも56kmの遠隔地にあり、立地条件のハンディキャップがあることは否めません。また、ダム建設による水没者の町外移転も含め、人口流出と高齢化が年々進行しており、過疎化は深刻な問題となっています。地理的遠隔地性のハンディキャップについては、交通基盤整備により解決は可能という考え方もありますが、日本全体としての財政状況が厳しさを増していく中で、今後劇的に改善されるというわけにはいかないのが現実だと思います。また、過疎化の問題にしても、様々な施策が行われているものの、人口流出に歯止めをかけるための、即効性のある処方箋はなかなかないというのが現状です。

こうした現状を踏まえ、志津見ダム建設により新たに創出される空間の活用について、地元住民と国、県並びに町において議論を重ね、地域づくりの全体構想となる『志津見ダム湖周辺活用計画』を「将来の地域の状況に過度の期待をかけない、背伸びをしない計画」を基本理念に平成14年3月に策定し、活用計画に基づいた基盤整備がなされ、各施設を地域一体となり運営し、地域活性化と生活向上を図る努力をしてきましたが時代の流れとともに事業内容のマンネリ化や担い手不足などの問題に直面してしまいました。このような問題を、再度、地域全体の問題として認識し、解決策を見出すため、今回、水源地域対策アドバイザー制度を活用することとしました。

2. 水源地域対策アドバイザー派遣概要

(1) 第1回水源地域対策アドバイザー派遣概要

- 【開催日時】 平成21年7月29日～31日（3日間）
- 【場 所】 志津見ダム管理庁舎、志津見周辺施設
- 【参加者】 水源地域対策アドバイザー 大滝 聡
国土交通省水資源部水源地域対策課 竹川主査
(有)志都の里 役員
志津見振興組合 組合員
島根県 斐伊川神戸川対策課
飯南町 政策推進課

(第1日目)

志津見ダム管理庁舎において、志津見ダム建設事業について見学。

(第2日目)

志津見地区の地域資源と事業概要を聴取し、大滝アドバイザーに現状把握をしてもらい、地域住民と懇談会を開催。

(視察場所)

- ①滞在型市民農園「志都の里クラインガルテン」
- ②ガラスハウス（農業施設）
- ③果樹公園
- ④東三瓶フラワーバレー
- ⑤やまめの溪（やまめ養殖場、釣堀）
- ⑥神戸の森

☞地域住民の意見など

◇クラインガルテン

- ・クラインガルテンにより外部の人と自分たちの自然に関する価値観が違うことに気付かされた。夜の生活に感動されたり、自分たちでは当たり前のことを外部の人から教えられることもあり、この事業により地域が元気になったと思う。
- ・クラインガルテン利用者の一番の問題は冬期間であり、約2ヵ月間何もできない。
- ・クラインガルテン利用者も初めは雪を喜ばれるが飽きられる。
- ・雪を逆手にとり冬のイベントの企画をしたいが、田植え・稲刈りイベント同様に、毎年同じ内容でやっても利用者の参加が少なくなり継続できないと思う。
- ・クラインガルテンの施設は同時期に建設しているので、将来的に同時期に修繕や故障が出てくる。減価償却分まで見込める経営が出来ないので、その時にどうするかが問題。
- ・このような施設（クラインガルテン）は老朽化すると新規に更新し成功するケースとそのまま失敗するケースがある。毎年1棟ずつ更新していく必要もあるが、積み立てもなく企業努力では無理である。結果的にそのあたりまで当初は詰めていなかった。
- ・ダム事業当初は、ホテル経営など行い地域の活性化を考えた「花の大使館構想」という計画であったが、背伸びをしない計画にしようということで、クラインガルテン整備に変更した。結果的には良かったが、利用者とのコミュニケーション不足や事業のマンネリ化などの問題も出始めている。
- ・クラインガルテン利用者は1年契約（※最長5年間）で、毎年、何組かは退去している。本当は、そういった方々のネットワークなどを活用し、事業に反映出来れば良いが出来ていない。

◇ガラスハウス

- ・現在、花卉栽培をメインとしているが、人材不足もあり兼務でやっているので十分な管理も出来ず、良い花が作れず高く売れない。
- ・ガラスハウスをクラインガルテン利用者に活用利用してもらうことも可能ではあるが、クラインガルテンに隣接した農地面積もかなりあるので、そこの管理だけ

で手一杯な状態である。

◇その他

- ・志津見地区では平成14年に活性化の計画を策定したが、高齢者不足や20年続けてきたフラワーイベントも将来的に続けられるか心配でもある。
- ・各施設（うぐいす茶屋、やまめの溪養殖場）を維持していけるのか不安である。
- ・クライנגアルテンの交流事業も目新しいものをやりたいが苦慮している。
- ・うぐいす茶屋では、女性3人体制で現在行なっているが手一杯である。豆腐は好評であるがこれ以上作ることができない。（手間不足、現役世代の高齢化）

☞大滝アドバイザーからの助言

志津見地区は充実した施設などが多くあり、高齢化率も比較的安く、他の地域と比べても条件は悪くない。

但し、各施設の運営方法や交流事業などを、全般的にコーディネートする組織がうまく機能しておらず、そうした中間的な人材も育っていないのが現状である。故に集落支援員制度や緊急雇用対策などを上手く活用し、外部のコーディネーターを誘致することが有効であると思われる。

このコーディネーターには、人と人、資源と資源をつなぐことによって、コミュニティの問題解決能力をフルに引き出すことが求められる。

各施設に関しても、地域全体をひとつの大きな家と捉えて、その役割を明確化する必要がある。例えばクライングアルテンの管理棟は地域の茶の間、うぐいす茶屋は地域の台所、といったように位置づけ機能させて、地域全体をコーディネートしていきたい。

地域振興策としてすぐに外貨獲得という言葉を聴くが、これは必ずしも正解ではない。地元で消費する仕組みがもっと必要である。地域の方々が何を求め、何を必要だと思っているかという情報を丹念に拾い集め、それらを地域経営に活かすべきである。

地域に暮らす人が全員家族として捉えられるようになってくると、自ずとそれぞれの役割や使命といったものも見えてくるように感じている。

私は、中間支援組織のNPOもいくつか立ち上げており、行政らと協働しながら地域振興に必要なコーディネーターを育成する仕事もしているが、コーディネーターの養成は、特別な知識や専門性を教えるというより、まず人の話をじっくり聞く技術や、そこから得た情報を地域資源と上手く結びつけるための訓練を主に行っている。こうした作業の重要性をコーディネーターはもとより、中核を担う方々全員がしっかりと認識する必要がある。

この志津見地区も、そういったコーディネーターの設置によって地域内それぞれの関係性が深まれば、自ずと元気を生み出せるのではないかと考える。

(第3日目)

大滝アドバイザーが、島根県中山間地域研究センターの実施しているコーディネーター事業（中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業）について、研究センターの笠松研究員に実情などを確認していた。話しの中でいくつかの課題、問題点があることがわかった。

- ・内部と外部との問題（マネージャーと地元との考え違い）
- ・マネージャーが女性の場合、田舎では距離をおかれるケースもあり、十分関わりを持つこともできなくなる。
- ・人の難しさ（地域との信頼関係など）
- ・この事業では県内の9箇所で地域マネージャーが配置されている。最も上手く成功されているのが、弥栄のマネージャーとのこと。島根県立大学とも連携し里山レンジャーなどを立ち上げ、地域づくりに貢献されている。しかしながら、地域マネージャーは人との付き合い、地域との付き合いでもあるため、現状では色々と問題や課題があるとのこと。地域マネージャーとして業務を行っていく場合は、地域とマネージャーとのコミュニケーションが最重要である。



(2) 第2回水源地域対策アドバイザー派遣概要

- 【開催日時】 平成21年10月3日
【場 所】 志都の里ラインガルテン クラブハウス
【参加者】 水源地域対策アドバイザー 大滝 聡
国土交通省水資源部水源地域対策課 古谷課長補佐
(有)志都の里 役員
志津見振興組合 組合員
島根県 斐伊川神戸川対策課
飯南町 政策推進課

今回は、前回助言のあった地域マネージャーの実際の活動の内容、問題点、課題などについて「弥栄らぼ」の皆田 潔さんから話しを聞き、その後、地域住民の気運を盛り上げるため、現状の課題や問題点及び将来像などについてワークショップ形式で話し合った。(※別紙ワークショップ資料参照)



(3) 第3回水源地域対策アドバイザー派遣概要

- 【開催日時】 平成21年12月8日
【場 所】 志都の里ラインガルテン クラブハウス
【参加者】 水源地域対策アドバイザー 大滝 聡
国土交通省水資源部水源地域対策課 竹川主査
(有)志都の里 役員
志津見振興組合 組合員
島根県 斐伊川神戸川対策課
飯南町 政策推進課

◇第2回（10/3）のワークショップのまとめ◇

前回のワークショップで出た地元の意見や想いを志津見地区の理念となるような一文にまとめ、前回の参加者へフィードバックする。

【作業①】

ワークショップで各グループから出た意見の中からキーワードを洗い出す

定住（心がつながる）

- ・飯南町の玄関口
- ・観光の核
- ・都市の交流
- ・上下流交流の場

笑顔で暮らせる（あいさつ）

- ・みんなで楽しめる地域
- ・健康（心も体も）
- ・安全な地域
- ・休養地・保養地

お金が回る（経済力）

- ・自給自足
- ・物作り
- ・自主自立した地域
- ・産直を活かす
- ・上下流交流の場

・リサイクル活動

⇔ 助け合いの地域

四季のある風景（花）

- ・志津見の風景

伝統を大切にする

- ・季節の行事

生きがいを持てる

- ・子供を大切にする
- ・**歳をとっても活躍できる**

【作業②】

作業①で洗い出したキーワードを統合する

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| ○笑顔で暮らせる | ○自立・自給 | ○助け合い |
| ○伝統を守る | ○みんなの生きがい | ○つながりの要 |
| ○美しい景観 | ○リサイクル | |

【作業③】

作業②で統合したキーワードを一文にする

- ① 私たちは、心のつながりをもって、この自然と土地の豊さを活かし、笑顔で暮らせる地域にします。
- ② 私たちは、昔から伝わってきた美しい自然と、すばらしい伝統を引き継ぎ、お互いに手を取り合って自立した地域をつくります。
- ③ 私たちは、四季折々の自然を愛し、あたえられた資源を大切に、伝統を守り、助け合い、笑顔で暮らせる地域にしよう。
- ④ 四季折々は非常に美しいところ。ゴミをなくし助け合い笑顔で安心して暮らせる地域にします。
- ⑤ 私たちは、この志津見の美しい景観・伝統を守るため、地域が一つになり助け合い、また、それぞれが自立し限りある資源のリサイクルに務め、活力のある、そして、笑顔で暮らせるまちにします。
- ⑥ 私たちは、美しい景観と伝統を守りながら、笑顔で助け合い暮らし、沢山の人達との交流により自立した地域にします。
- ⑦ 私たちは、まちとの交流の要となるところの地で、先人たちから受け継いだ美しい景観と伝統を守り、助け合いながら経済的な自立を成しとげ、生きがいと笑顔があふれる山里としたい。
- ⑧ 私たちは、志津見の底力を引き出し、助け合いとつながり合う精神を持って、みんなの笑顔あふれる美しいふるさとをつくります。

【作業④】

作業③までを最終的にまとめる

私たちは、志津見の美しい自然と文化を生かし、つながり合う心を持って自立することで、笑顔で暮らせる地域にします。



◇地域おこし協力隊員について◇

☞地域の想い

○協力隊に具体的に取組んでもらいたい内容

- ・ 周辺施設（うぐいす茶屋・やまめの溪・ガラスハウス）を活用した取り組み
- ・ クラインガルテン利用者とのつながり
- ・ クラインガルテンの交流事業の組み立て

○協力隊員に希望すること

- ・ 地域で即戦力となる人材
- ・ 4年後も継続的に残ってもらえる人

☞大滝アドバイザーからの助言

- ・ まずは、地域に馴染むため、初年度はクラインガルテン利用者との交流を図り、人とのつながりを作ることが必要。
- ・ 即戦力となる人材がいれば一番理想ではあるが、現実的にはなかなかいないと思う。3年間で人材育成し、4年後以降の戦力となるよう時間をかけた取り組みをしたほうが、持続性が期待できる。
- ・ 「歓迎」は必要だが、過度な「期待」は協力隊員に負荷をかけてしまい失敗する。そんな事例を沢山見てきた。
- ・ 行政の役割として、協力隊員が地域に馴染めるスキルを高めるための、研修（経験）や訓練の機会を作ることが必要。

3. 水源地域対策アドバイザー派遣により見えてきた課題及び成果

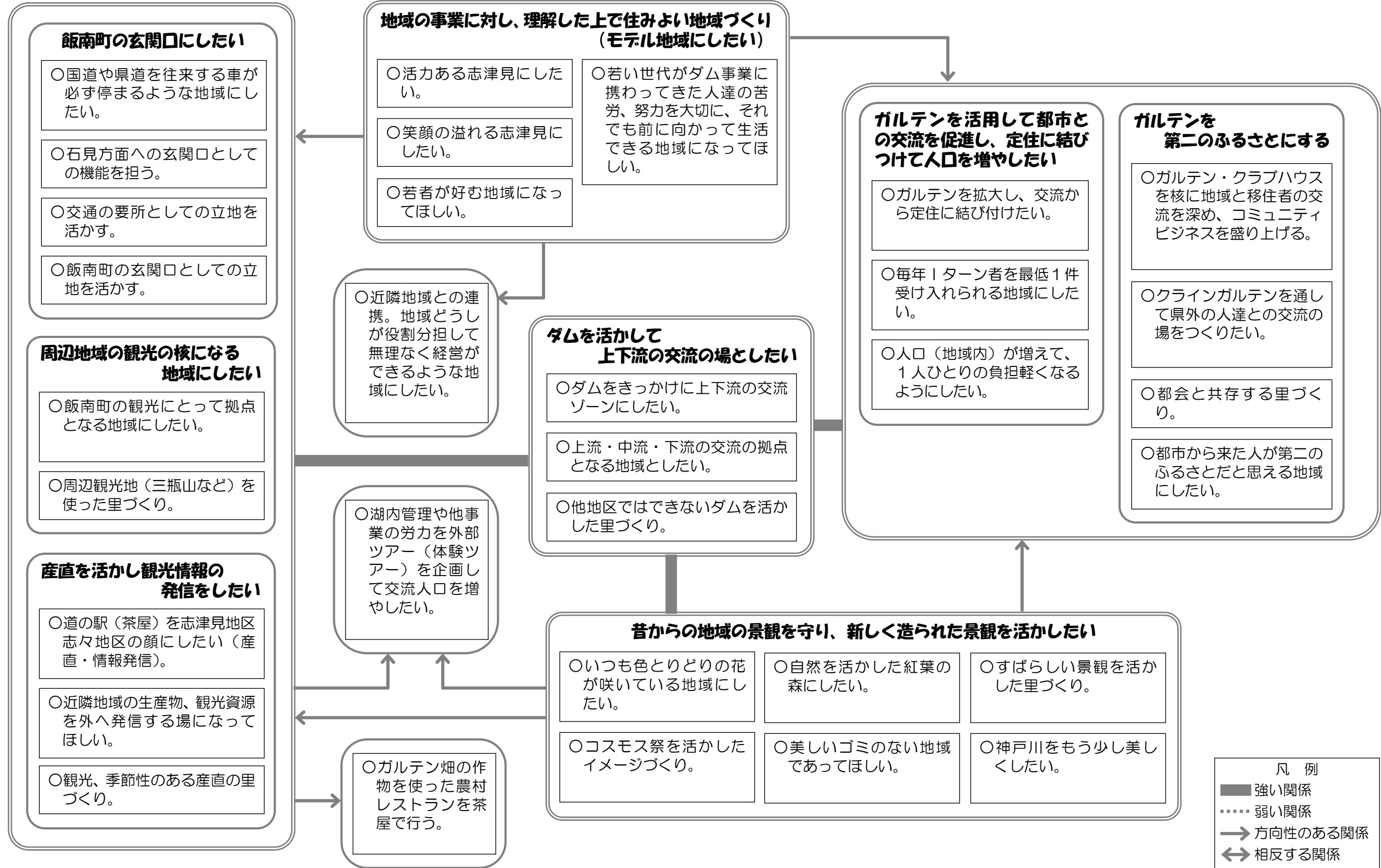
- ①地域が抱えている問題（後継者、担い手不足）を地域全体で再認識
- ②地域おこし協力隊員を受け入れるにあたっての心構えの確認
- ③次の担い手となる人達と問題を共有するためのコミュニケーションを図りながら、引き継ぎ（世代交代）をしていくことが必要

出された意見を統合した目指す将来の地域

ダムを活かした交流の里にしたい！

地域づくりに関する意見

メンバー



自然を守り若者が残れる生きがいの持てる地域にしたい！

地域づくりに関する意見

メンバー

○志津見ダムができたこと
によって良かったと思える
未来にしたい。

お金が回る地域にしたい

- 志津見で仕事をして安定した生活ができるようにしたい。
- 志津見の特産で人が寄ってくるようにしたい。
- お金が回る地域にしたい。

生きがいの持てる地域にしたい

- 自分が楽しい地域にしたい。
- 生きがいの持てる地域にしたい。
- みんなが一緒の目標を持った地域にしたい。

地区内の季節行事を
続けていきたい

- 地区内行事が細々と続けばいいな。
- ガルデナーとの関係が希薄にならない距離をつくりたい。
- 季節行事を続けていきたい。

子供を大切にする地域にしたい

- 子供達の声が響く夕暮れはなごむ。
- 子供が多い地域にしたい。
- 我が家で近所の子供がご飯を食べるのが普通の街に。
- 子供達の遊び声が聞こえる志津見。
- いつも子供の歓声が響く里。

よそから人が訪れたい地域にしたい

- 地区外の人達が涼や幸を求めて訪れたい里。
- 人が遊びに来る地域にしたい。
- 全国でも有名な地域にしたい。

いつまでも志津見の風景を忘れないようにしたい

- 季節を五感で感じられる志津見でいてほしい。
- 川遊びのできる環境づくりがしたい。
- 自然を活かした地域（山中散歩が誰でもできる場所を作る）それも自然体で。
- 自然エネルギーの活用で、この地区が恩恵を受けたい。

歳をとっても元気で活躍できる地区

- 老人も足しになっていると思われるような地域にしたい。
- 明るく活気有る所にしたい。
- 元気な老人が明るい笑顔溢れる志々の里。
- 歳をとっても、一人になっても、病気や孤独を心配しない地区にしたい。

若者・子供で溢れる地域にしたい

- 若い人にどんどん住んでもらいたい。
- 定住したくなる地域にしたい。
- 若者が生き活きと働け、友人との絆が太い山里に。
- 若い人が帰って来れる地区にしたい。
- 子供達が帰って来なくなるふる里になってもらいたい。
- 若い人が残れる地区にしたい。

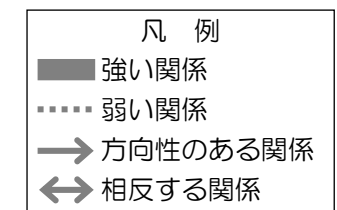
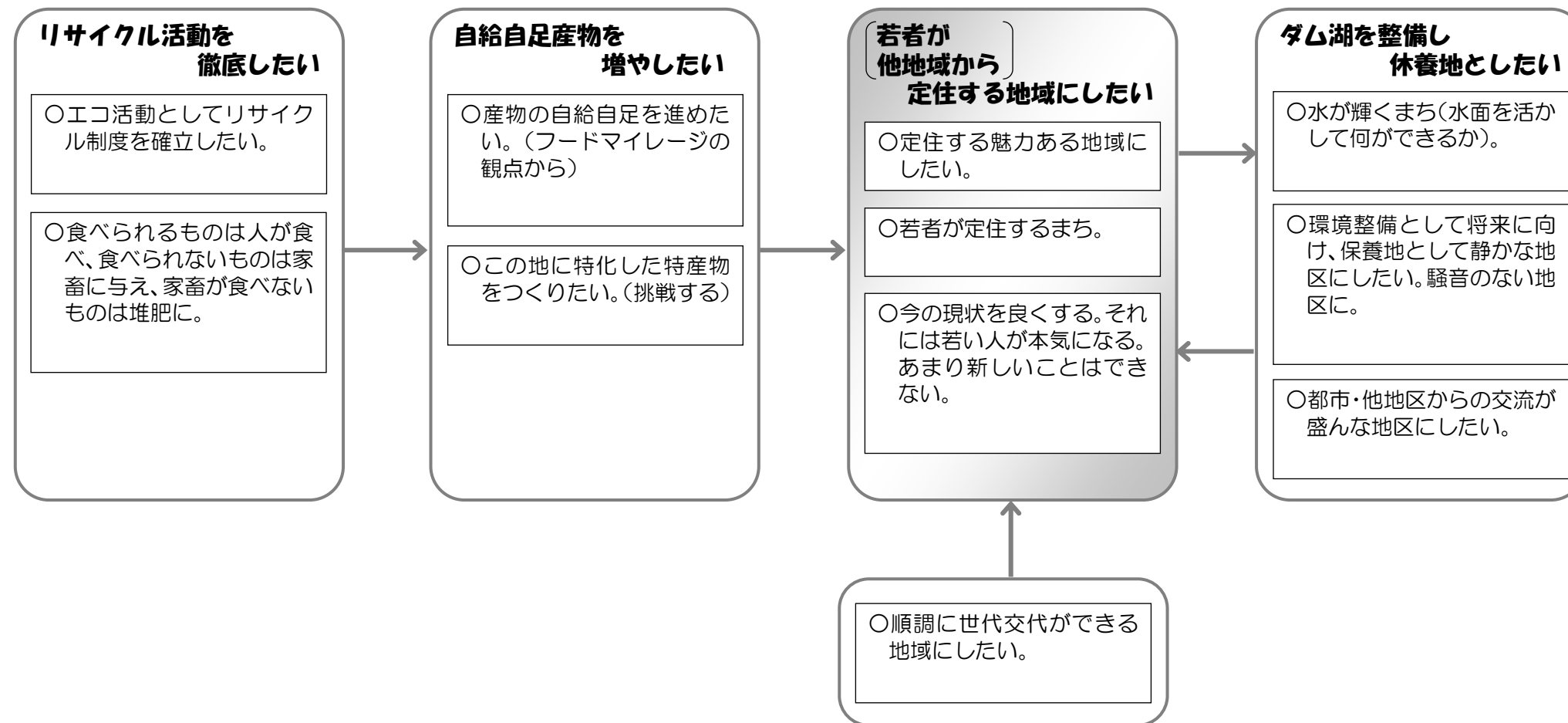
○みんながせくせく働けば
ばかりでなく、もう少しゆ
ったり生活ができると良
い。

- 凡例
- 強い関係
 - 弱い関係
 - 方向性のある関係
 - ↔ 相反する関係

自然豊かな環境を創造し、若者が定住する地域にしたい！

地域づくりに関する意見

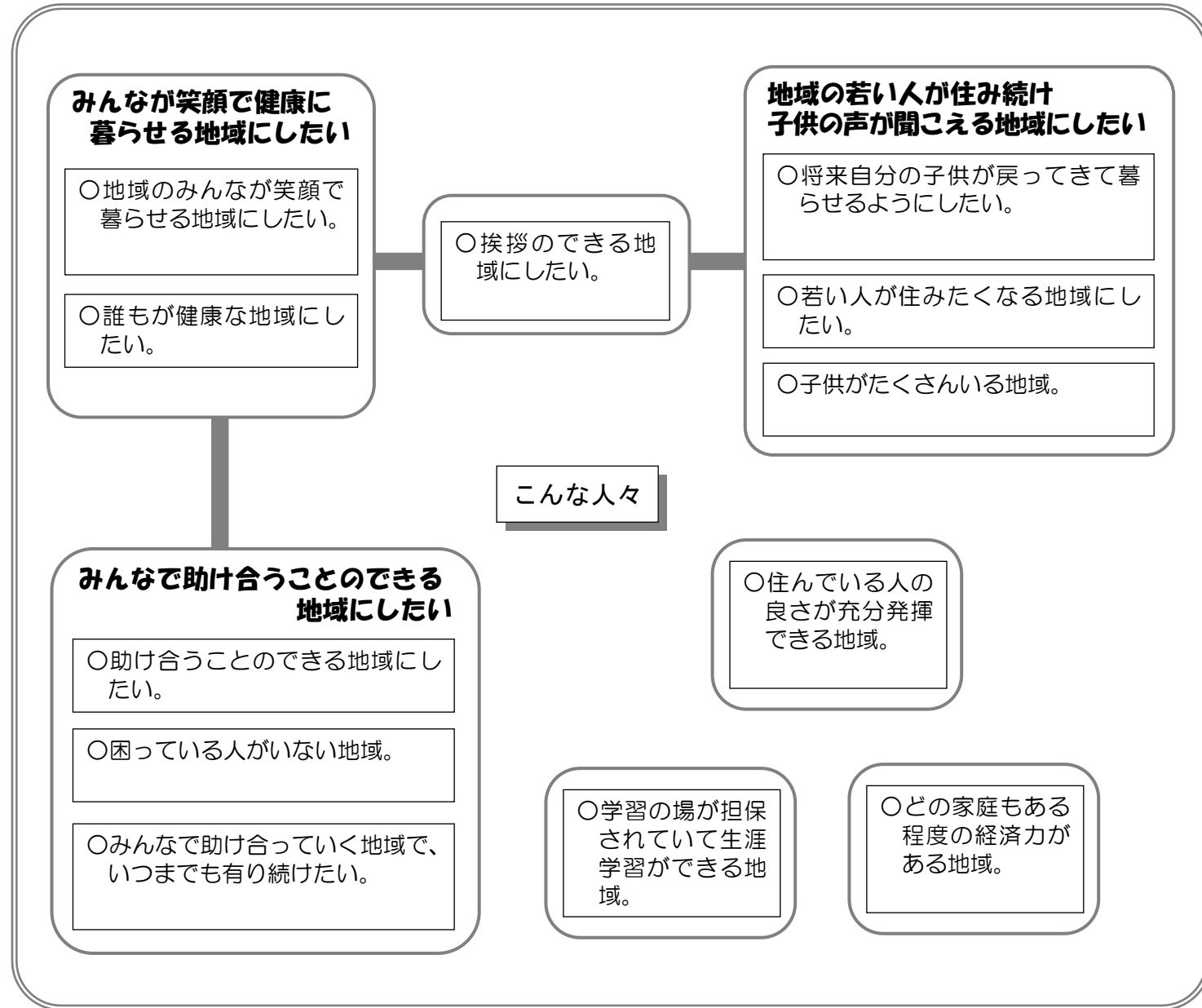
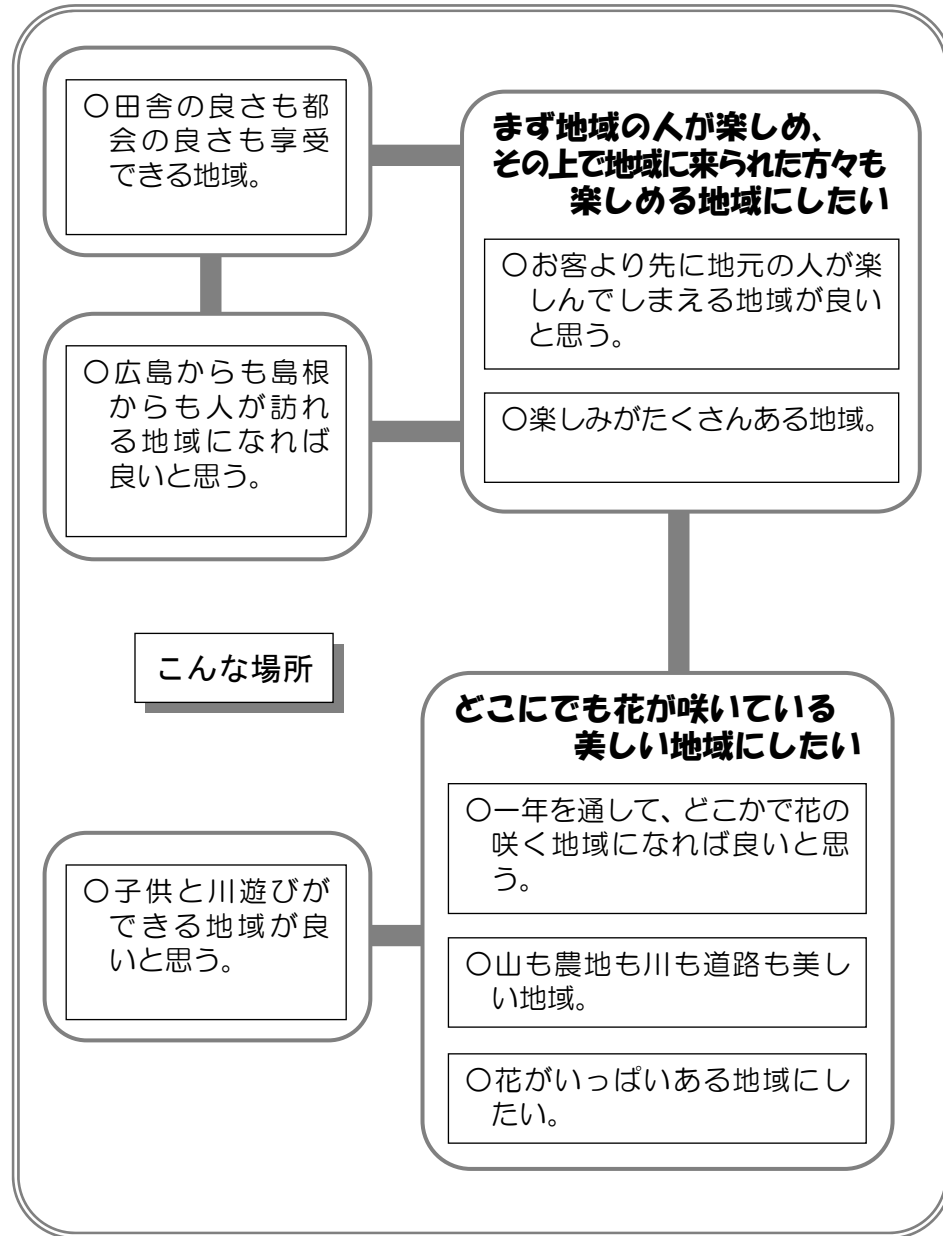
メンバー



みんなが助け合いながら明るく元気に暮らせる 来た人も楽しい地域にしたい！

地域づくりに関する意見

メンバー



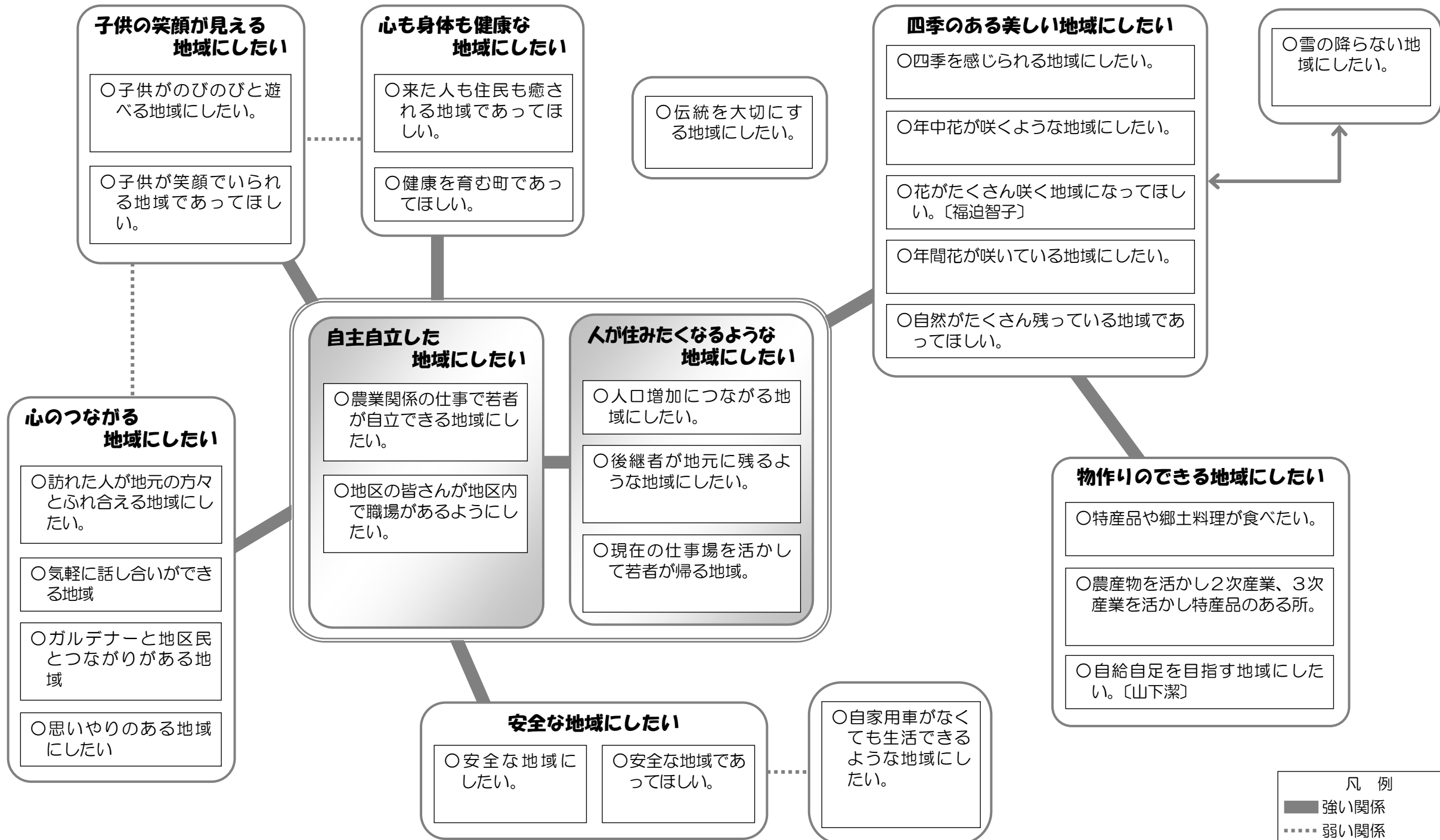
凡例

- 強い関係
- 弱い関係
- 方向性のある関係
- ↔ 相反する関係

四季と自立を求めて人が集まる地域にしたい！

地域づくりに関する意見

メンバー



凡例

- 強い関係
- 弱い関係
- 方向性のある関係
- ↔ 相反する関係